

メッヘレン郊外 聖ウルスラ修道院

カトリックの国では、女性が男性と同等に教育を受けることが難しかった時代、女子修道院がその教育に力を尽くしてきました。これは日本にあるカトリック系女子学校の例にも見られますが、当然のことながらベルギーにはこのような学校が多くありました。メッヘレン郊外にも、「聖ウルスラ修道院」の寄宿学校が、まるで宝石のような姿を今に留めています。カリヨンや王立タペストリー工房で有名なメッヘレン中心部の見学とあわせて、訪れてみてはいかがでしょうか。



遠い昔のことゆえ真偽のほどは別として、聖ウルスラの伝説はいくつかあります。その一つが、イングランド王女だったウルスラが、父王の求めに応じて異教徒と結婚するため、1万1千人の侍女たちと船出したというもの。そこから彼女は、よい結婚をもたらす聖人や若い娘の保護者として崇められてきました。皆さんのなかで、クロード・ロランなどの絵に描かれた「聖ウルスラの船出」のイメージや、ブルージュにあるメモリンク作「聖ウルスラ聖遺物箱」をご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。大航海時代にはコロンブスが、ウルスラと、彼女に付き従って航海をした乙女たちにちなんで、ヴァージン諸島を命名しています。少女たちを、人間として、女性として、立派に育てるという理念を掲げたメッヘレン郊外の修道院に、伝説を踏まえて聖ウルスラの名が付けられているのは、必然的といえるでしょう。

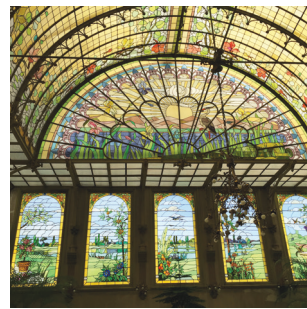


修道院では、3月から10月のあいだ、毎週日曜日に約2時間のガイドツアーが行われています。ツアーに加わると、レンガ色の広大な建物の内部を、丁寧な説明付きで見学することができます。

寄宿学校の始まりは、1841年まで遡ります。その後、長い年月を経て1980年代に共学になり、最終的に閉鎖されるまで、上流階級の少女向け学校として機能してきました。寄宿学校という閉じたイメージがあるかもしれませんが、寄宿生は多国籍で、さまざまな国の貴族の称号をもつ者や、大ブルジョワ出身の者が、遠く南米からも来ていたそうです。1917年のロシア革命後には、国を逃れて来た裕福なロシア人少女たちもたくさんいたといえます。そんな世界を反映して、建物の内部装飾には、アールヌーヴォー様式を主として、ネオゴシックやネオエンプイア様式が取り入れられ、当時の空気を現在に伝えています。

見どころはたくさんありますが、息をのむほど美しいのが温室「ウィンター・ガーデン Wintertuin Ursulinen」です。広い空間のドーム部分と一部の壁面に華やかなステンドグラスが施され、植物や鳥のモチーフ、そして景色が描かれています。床は模様付きのタイルで敷き詰められ、陶器製の水盤と

あちらこちらに置かれた観葉植物が、心地よい温室のイメージを醸し出しています。まるで桃源郷を彷彿させるかのようなこの場所は、かつて、面会に来た保護者が娘と談笑するために使われていたそうです。



現在各種のイベントや宴会などに活用されている大小の多くの部屋は、部屋ごとに装飾のテーマが異なり、アルプス風の山々の絵や、「聖ウルスラの船出」に関する場面などが描かれています。一部屋ずつガイドの説明に耳を傾けながら見学すると、この建物がどれだけの趣向を凝らして作られたかわかるでしょう。



ちなみに、今回の取材を受けて下さったガイドのヴィレムさんは、アルプスの山々が描かれた部屋で、ご自分の節目となる結婚記念日のお祝いの宴を催されたそうです。また、寄宿舎で暮らす少女たちの食堂として使われていた部屋には、テーブルと椅子が長く並べられ、壁には少女たちへの教育的観点から選ばれたと考えられるテーマの寓話絵が見られます。



地上階の部屋を見学し終わると、連続モチーフのタイル張りの優美な廊下を歩いて上階に登ります。修道院なので立派な礼拝堂もあるわけですが、特に興味深いのが、少女たちがピアノの練習をした場所です。ここは普通の音楽室のイメージからほど遠い空間で、長い廊下に沿って、いずれも同じ小さな個室がずらりと並んでいます。木製の装飾ガラスが取り付けられたドアを開けると、すべての個室の同じ側にピアノが設置されています。時間帯によったかもしれませんが、ここで少女たちが一斉にピアノの練習をするということもあったわけです。区切られているとはいえ、防音が完全でない部屋で、みんなが一斉に弾くとどうなるのでしょうか。この問題は、木の床の並ぶ方向が解決してくれたようです。つまり、各個室を挟んで位置する前後の部屋に音が壁を経て伝わらない向きに、床の木板が張られているのです。とはいえ、少しは伝わったであろうと考えるといかにも滑稽ですが、このような造りの音楽室は、ベルギーだけでなく、例えばイタリアなどにもあり、当時建てられた女子寄宿学校の典型的なものといえます。

かつての特権階級出身の少女たちが、女性としての美德や知識を身につけ、将来幸せな結婚をすることを願われて送り込まれたこの建物の一部は、現在、共学の公立学校として使われています。ガイドツアーがある日曜日の、生徒たちがいない静かな建物を歩きながら、いにしえの少女たちの生活に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

"Wintertuin" www.visitwintertuin.be (英・蘭・仏・独語)

Bosstraat 9, 2861 Onze-Lieve-Vrouw-Waver

Tel : 015 75 77 28

info@visitwintertuin.be

ガイドツアー : 3~10月毎週日曜日/11~2月第3日曜日 14h30

入場料 : €10

行き方 : メッヘレン駅からバス510番か511番で約20分。

Onze-Lieve-Vrouw-Waver教会下車。徒歩約200m